【北上川】花巻地区かわまちづくり説明資料

令和７年４月　花巻市

Ⅰ．花巻地区の概要

①花巻市および計画地の概要

花巻市の概要　※要点を赤字表記

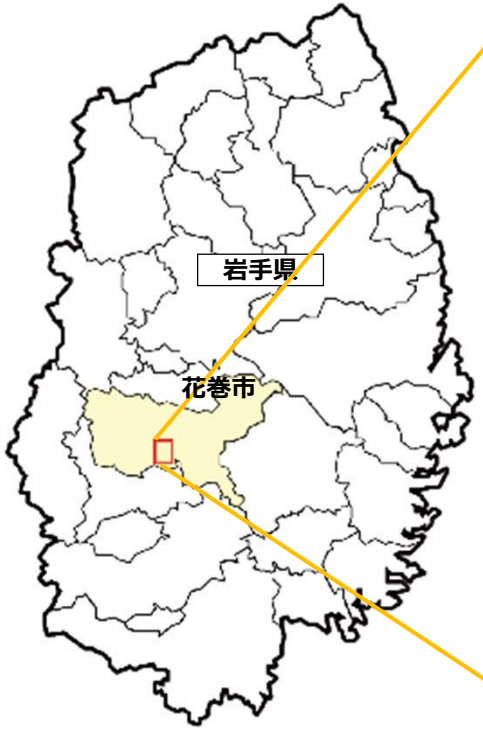
①都道府県：岩手県　②市町村名：花巻市　③人口89,656人（R7.1現在）
④面積： 908.39㎢　⑤市の概況

■花巻市は岩手県のほぼ中央に位置し、東には北上高地の山並み、北東部には北上高地の最高峰で国定公園の早池峰山(1,917m)がそびえる肥沃な北上平野に位置する。

■岩手県内唯一の空港・いわて花巻空港があり、東北新幹線新花巻駅や東北本線花巻駅、東北自動車道、東北横断自動車道が整備されるなど、北東北の高速交通網の結節点。

■市の西部には奥羽山脈の渓谷沿いに湧き出る花巻温泉郷があり、宮沢賢治の関連資源が多く存在し、発祥の地であるわんこそば、南部杜氏による日本酒、ユネスコ無形文化遺産である早池峰神楽などの歴史・文化資源も豊富。

■花巻市は観光客の年間入込数が200万人を超える（令和元年度・イベント入込を含む）観光都市。



①花巻市および計画地の概要

かわまちづくり計画地の概要

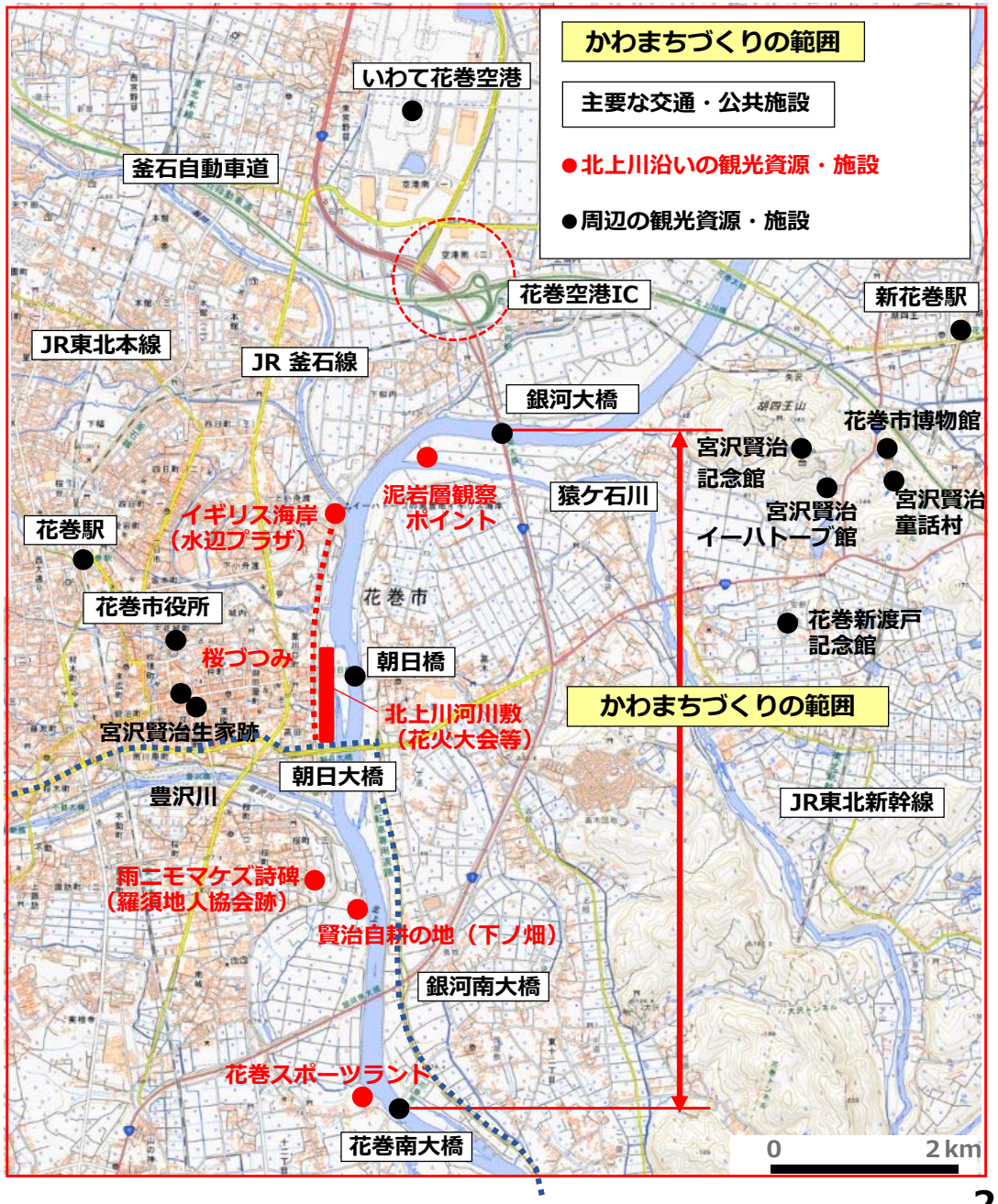
■花巻市中心市街地の東側には、北から南へ花巻市を縦断するように北上川が流れており、途中、猿ヶ石川、瀬川、豊沢川等の支川が合流している。

■北上川に合流する支川の瀬川や猿ヶ石川にはイギリス海岸で有名な泥岩層が見られるポイントがある。
また、イギリス海岸を中心に「花巻水辺プラザ」として公園や桜づつみを結ぶ水辺の散策路や船着場などが整備されている。

■イギリス海岸や下ノ畑など賢治の歴史を感じることのできる資源が多く点在するエリアである。

■朝日橋上流部～朝日大橋の間の河川敷では、毎年様々なイベントが行われており、幻想的な雰囲気を醸し出す花火大会は、県内屈指の打ち上げ数を誇っている。

■花巻スポーツランドでは銀河大橋から花巻南大橋までの河川水面を利用して様々な体験活動を行っている。



②花巻温泉郷から中心市街地の活性化、そしてかわまちへ

【花巻温泉郷の観光客が中心市街地に来ない】
花巻温泉郷を訪れた観光客（年間100万人以上）は市内中心部に来ない

【中心市街地に来る市民が減少】
市民が中心市街地に来なくなっている

観光資源のネットワーク

休憩施設や駐車場

賢治の物語に出てくる朝日橋

北上川を遊覧するボートによる川下り

北上花巻温泉サイクリングロード

賢治ゆかりの資源のネットワーク化

該当する上位計画
【花巻観光振興ビジョン】
【第2次花巻市まちづくり総合計画 前期アクションプラン】

賢治ゆかりの資源をウォーキングトレイル、北上花巻温泉サイクリングロード、観光タクシー、遊覧船などにより結んで観光資源として生かす

市街地活性化のための社会実験

『中心市街地活性化』から『かわまち』へ

該当する上位計画【花巻観光振興ビジョン】
【第2次花巻市まちづくり総合計画前期アクションプラン】

中心市街地の活性化として行われている上町通りでの過去４１回も開催されている「どでびっくり市」や花巻中央広場、上町通りなどを活用して実施されている「花巻中央エリア社会実験」をかわまちにも展開

市街地でのまちづくり社会実験

どでびっくり市

『花巻温泉郷の利用者を中心市街地へ！』 ➤ 『中心市街地からかわまちへ！』

③花巻市の上位計画（北上川の位置づけ）

【花巻市都市計画マスタープラン（H22策定、R4年一部改定）】

■奥羽山脈・北上高地などの山々や北上川などの本市を形づくる骨格となっている緑については適切な保全を図る。
■北上川など河川沿いの豊かな河川環境の保全、橋梁など構造物のデザインの配慮に努め、自然景観と構造物の調和のとれた河川景観の形成を図る。また、市街地においては親水空間の設置を促進するなど、良好な河川空間形成に努める。
■生物の生息環境や自然景観の保全、親水性の向上などに配慮した良好な河川景観の形成に努める。
■北上川とその支流の河川緑地の保全を図り、市街地内の河川沿いの歩行者空間の魅力向上を図る。
■河川沿いの豊かな河川環境の保全、橋梁など構造物のデザインに配慮するとともに、市街地においては親水空間の設置を促進するなど、良好な河川景観の形成に努める。
■水害防止のため、北上川をはじめとする河川の築堤や改修を促進する。

【第２次花巻市まちづくり総合計画　前期アクションプラン（R6策定）】

■体験型観光と花巻温泉郷等への宿泊を組み合わせた滞在型メニューの整備。
■（仮称）北上川活用まちづくり事業（かわまちづくり事業）において「北上川活用に関する調査、検討」が位置付けられている。
■魅力ある商業地域の形成を目指し、中心市街地の賑わいづくりを支援。

【第３次花巻市環境基本計画（R6策定）】

■河川の定期的な清掃活動、モニタリングの支援、地域の団体への河川清掃の委託を継続し、河川の自然環境保全に取り組む。

【花巻観光振興ビジョン（H2策定）】（一社）花巻市観光協会策定

■ラフティングなどの自然体験、農業体験、健康づくり体験、賢治をはじめとする先人を学ぶツアー、雪に関連する体験プログラム等、地域資源を生かした各種のプログラムを創出し、温泉滞在と組み合わせることで魅力を向上させていくこととしている。

【花巻市立地適正化計画（R2策定、R5変更）】

■「花巻リノベーションまちづくり構想」を通じてまちなかにおける働く場を創出し、都市機能の再構築に向けた公的不動産の積極的な活用を図り、公共空間を有効利用する取り組みとして社会実験を行っている。

Ⅱ．これまでの関連施策と活動内容

①これまでの関連施策と活動内容

凡 例
関連施策
活動内容

施策１ **【ウォーキングトレイル事業】** 1996(H8)～2007年(H19)　※詳細説明資料あり

■「賢治さんと歩く心象ロード」をキャッチフレーズにウォーキングトレイルを整備。
■歩行者専用道、歩車共存道、歩道を整備して、歩行者道路のネットワークをつなぎ、案内サイン、ベンチやパーゴラなどの休憩施設、トイレ等を整備。

施策2 **【花巻水辺プラザ】** 1999（H11）年※詳細説明資料あり

■河川管理者と市の協働により整備。**イギリス海岸を中心**に多くの人たちの憩いや交流の場とするために、花巻市の公園や桜づつみを結ぶ水辺の散策路、坂路、階段、船着場、トイレ等を設置。

■ドーバーファーム市民の会による農作物の栽培や花壇の整備、収穫祭などのイベントが行われている。

施策3 **【桜づつみ】** 1990(H2)～1998(H10)年

■桜づつみモデル事業として河川管理者と花巻市の協働により、北上川右岸には**イギリス海岸から朝日大橋まで約2kmに渡り遊歩道が整備されている**。

活動1 **【どでびっくり市】**
上町通りで過去４１回開催されている「どでびっくり市」。旬の品を販売。

活動2 **【花巻中央エリア社会実験】**
※詳細説明資料あり
中心市街地活性化の一環として花巻中央エリアでの社会実験を実施。

活動３ **【北上川河川敷】** ※詳細説明資料あり

花巻市では北上川右岸河川敷の、**朝日橋の上流～下流の区間を占用しており、花火大会（イーハートブフォーラム）**など大きなイベントの会場となっている。

活動4 **【銀河大橋たもとでの乗船】**
■かわまちづくり計画範囲の上流端に位置し、現在は未整備の河岸を船の発着場所として利用している。
■車両の進入は可能であるが駐車場等は未整備である。

活動5 **【泥岩層が観察できる猿ヶ石川】**
■銀河大橋のすぐ下流の北上川と猿ヶ石川合流点付近には、泥岩層が観察できるポイントがある。

活動6 **【下ノ畑】**　※詳細説明資料あり

■賢治自耕の地と言われる下ノ畑を再生し、宮澤賢治「下の畑」保存会や地元の高校生が作物や花を栽培。

施策4 **【北上花巻温泉サイクリングロード】** 1973(S48)～1979(S54)年
※詳細説明資料あり
(岩手県道501号北上花巻温泉自転車道線)

岩手県が管理する、**北上市から花巻温泉までの約26ｋｍの自転車道。**
かつての花巻電鉄の軌道跡や北上川の堤防道路を活用。

河北新報社提供

活動7
④ **【河川水面利用（川下り）】**
※詳細説明資料あり

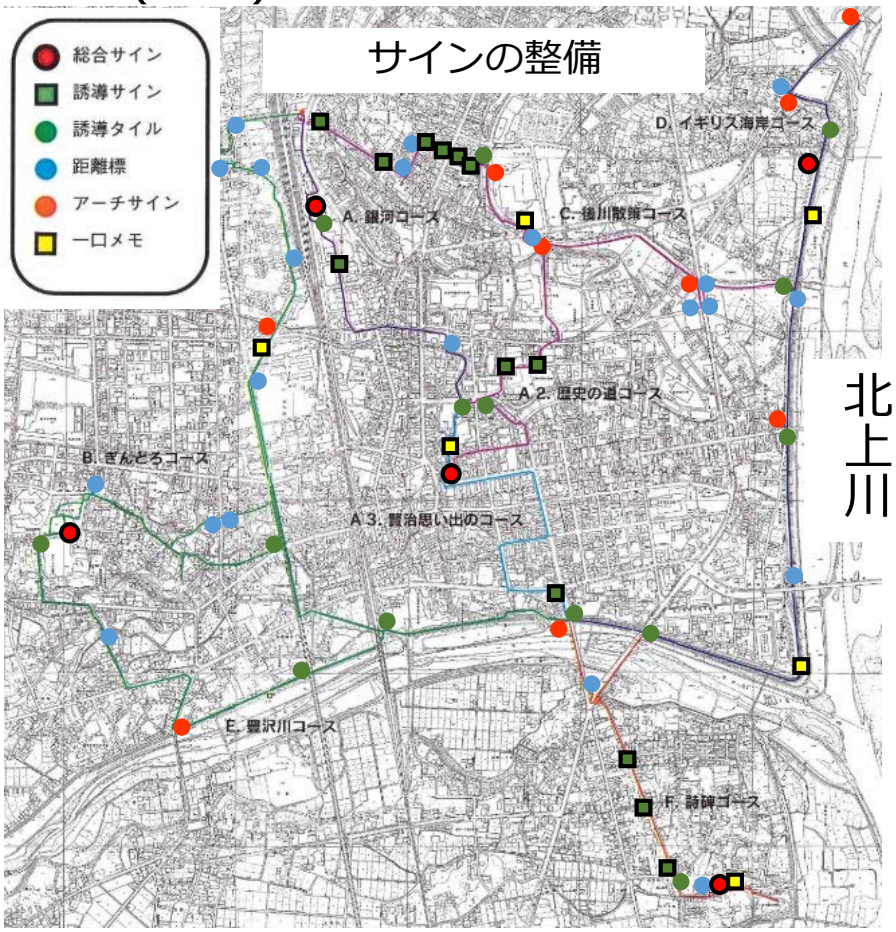
■花巻スポーツランド（民間施設）では、**河川水面を利用したアクティブな体験**ができる活動を展開している。
■1年を通して様々なイベントが行われている。

②関連施策

施策1【**ウォーキングトレイル事業**】（1996(H８）～2007(H19)年）

■「賢治さんと歩く心象ロード」をキャッチフレーズにウォーキングトレイルを整備。

■歩行者専用道、歩車共存道、歩道を整備して、歩行者道路のネットワークをつなぎ、案内サイン、ベンチやパーゴラなどの休憩施設、トイレ等を整備しました。



休憩施設

ベンチ

アーチサイン

②関連施策

施策2【**花巻水辺プラザ**】（1999(H11)年）

■花巻市と河川管理者の協働により「花巻水辺プラザ」が整備され、平成13年に登録。

■花巻水辺プラザでは、イギリス海岸を中心に多くの人たちの憩いや交流の場とするために、花巻市の公園や桜堤を結ぶ水辺の散策路や坂路、階段、船着場、トイレ等を設置。

遊歩道

桜づつみモデル事業で整備された遊歩道と桜並木

船着場

②関連施策

施策2【**花巻水辺プラザ（宮沢賢治関連）**】（1999(H11)年）

イギリス海岸のドーバーファーム市民の会の活動

■地元の活動団体であるドーバーファーム市民の会（約8名）では、イギリス海岸近くの畑で農作物を育成・収穫。

■また、花巻水辺プラザで花壇の整備や除草、また賢治に関するパネル展や育てた野菜の収穫祭などのイベントを開催し、地域住民や観光客が北上川に親しみを持ってもらうための活動を展開している。

水辺プラザの花壇の手入れ

宮沢賢治パネル展

ドーバーファームで収穫された野菜の収穫祭

②関連施策

施策4【北上花巻温泉サイクリングロード】1973(S48)～1979(S54)年

花巻温泉郷と水辺の連携

「花巻市観光ビジョン」では花巻温泉郷とラフティングなどの新しいアクティビティを結びつけて新たな観光需要を開拓することが位置付けられています。

●サイクリングロードの活用

岩手県が管理する北上花巻温泉サイクリングロード（延長約Ｌ＝２６ｋｍ）は花巻温泉と北上川を結ぶルートとなっており、認知度を向上させ有効に活用することが望まれます。

サイクリングコースの利用状況
※河北新報社提供

③活動内容

活動１【どでびっくり市】

上町商店街でこれまで４１回開催されている市。

出典：花巻商工会議所青年部会ＨＰ

活動2【花巻中央エリア社会実験】

市が使用申請等を支援し、民間事業者や学生の多様なアイディアが実現された。

【「花巻中央エリア社会実験2023」実施されたプログラム】
マルシェ（キッチンカー等出店）、スカイアンブレラ、おもちゃ広場、スケートボード、多言語ラジオ体操、青空まちライブラリー、たき火、道路ペイント、道路上でのバーベキュー、ストリート＆車いすハンドボール、かがり火をたいた神輿鑑賞会、花巻傘＆成島和紙ランプシェイドによるライトアップ、親子まちなか探検、ストリートピアノ、人工芝の敷設による臨時パークレット　など

まちなかBBQ

おもちゃフェスティバル

道路ペイント

スケートボード

青空まちライブラリー

花巻おもちゃフェスティバル

ストリートハンドボール

③活動内容

活動3【北上川河川敷】

イーハトーブフォーラム
（花火ファンタジー＋ツーデーマーチ）

■賢治の精神を次代の子供たちに伝えることを願い始まった夏のイベント「イーハトーブフォーラム」の一環として、青年会議所主催の花火大会が朝日橋～朝日大橋で開催。

■令和元年には同時に開催されるツーデーマーチ（R6は大雨のため中止）と併せて５万人を超える集客があった。

■花火大会の桟敷席を有料席として運営費に充てている。

ウォークイベント「ツーデーマーチ」

花火ファンタジー

出典：東北のまつりポータルサイト
（東北六県商工会議所連合会が運営）

花火会場の桟敷席　令和６年8月24日

ウォークイベント「ツーデーマーチ」

③活動内容

活動3【北上川河川敷（つづき）】

消防演習

市消防本部の主催で毎年開催されており、纏（まとい）振りやカラー放水等の訓練が披露されている。

消防演習（カラー放水）

デコトラ撮影会

県内のトラック愛好家が集まって、デコレーショントラックの撮影会を開催。

愛好家団体の「飛勢會（とばせかい）」が交通遺児や震災被災者への支援を目的にしたチャリティー撮影会を主催。2015～17年、19年、22年、23年の夏に実施している。

デコトラ撮影会

※岩手日日新聞提供

③活動内容

活動6【下ノ畑（宮沢賢治関連）】

賢治自耕跡の地「下ノ畑」の再生

■下ノ畑保存会（約10名）では、平成20年から北上川河畔にある賢治自耕跡地「下ノ畑」を再生し、作物や花を栽培している。

■案内板、賢治設計の花壇「涙ぐむ目」などを整備した。

■観光客の立ち寄り拠点となっており、大学の研究室や修学旅行生にガイドを行うこともしている。

■少し内陸に入ると、賢治が設立した私塾「羅須地人協会跡地」があり、現在は「雨ニモマケズ」の詩碑が置かれている。

名称柱

案内板（令和4年）

映画「銀河鉄道の父」のロケ地になった

子どもの体験学習に活用

賢治が設計した花壇「涙ぐむ目」

花巻農業高校が管理する畑

花巻農業高校に移築復元された羅須地人協会

③活動内容

活動7【花巻スポーツランド（北上川フィールドクラブ）】

四季を通した北上川と河川敷を利用した体験活動

ボート体験

川縁での水遊び

河川敷での三輪バギー体験

川流れ体験

トラクターによるソリ牽引

スノーモービル体験

③活動内容

活動7【花巻スポーツランド（北上川フィールドクラブ）】

現在行われている水上アクティビティの一例
銀河大橋～花巻南大橋付近までの約2時間の舟下り）

①銀河大橋たもと右岸の船着場の無い河岸から出発

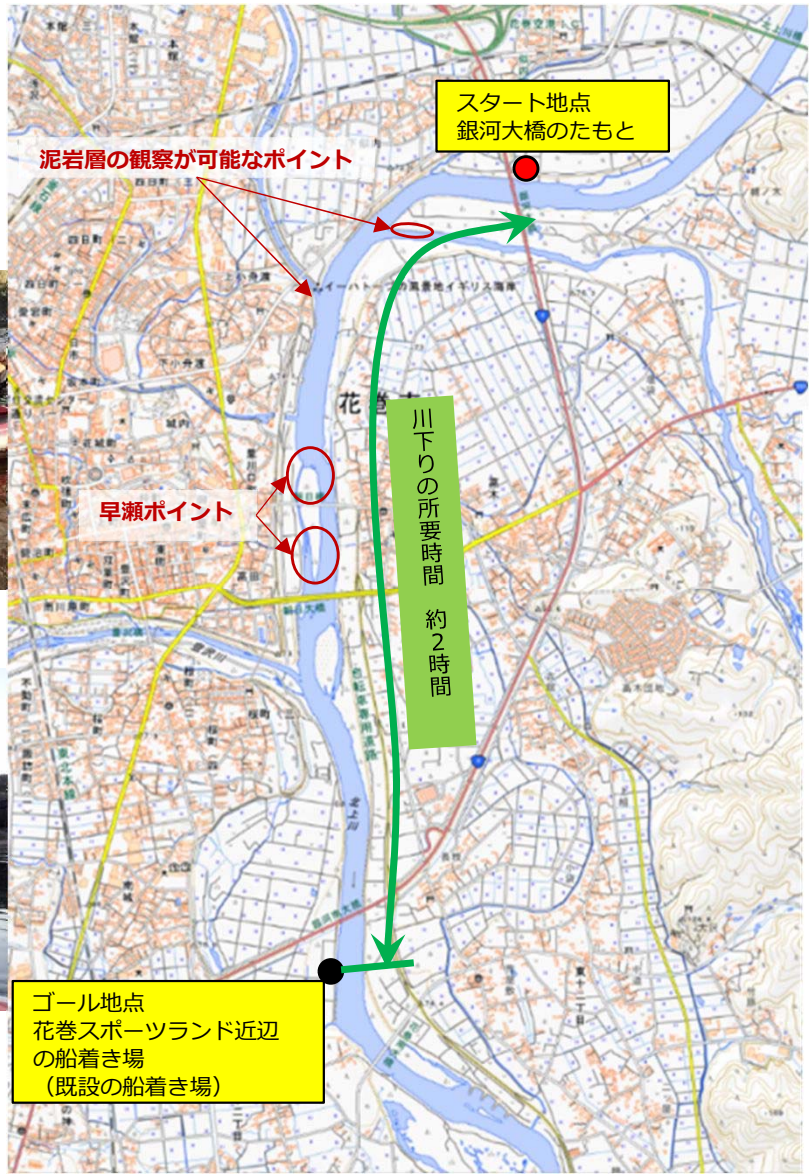
②動力船でゴムボートを牽引

③支流の猿ケ石川に入って泥岩層を観察

④北上川における泥岩層の観察とカワセミの巣などの説明

⑤朝日橋周辺の早瀬の区間では動力船から切り離してゴムボートの手こぎ体験

⑥花巻スポーツランドの船着き場でゴール



④その他

【その他（宮沢賢治関連）】

朝日橋とその周辺

北上川河川公園付近にある朝日橋は、賢治が亡くなる１年前の１９３２年に開通し、当時周辺では珍しいワーレントラス橋であったことから、「銀河鉄道の夜」の中で描写した大きな橋のモデルとの見方もある。

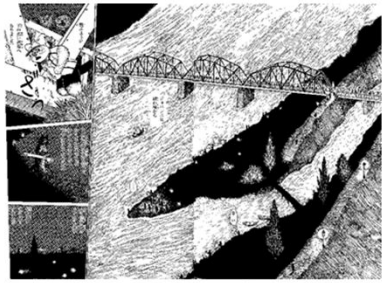
朝日橋

〔「銀河鉄道の夜」と朝日橋〕

銀河鉄道の夢からさめたジョバンニは、母親のために牛乳を受け取り家へ急ごうとします。「･･･みちは十文字になってその右手の方の通りのはずれにさっきカムパネルラたちのあかりを流しに行った川にかかった大きな橋のやぐらが夜のそらにぼんやり立ってゐました。」という、この大きな橋のモデルは朝日橋で、昭和７年に完成しました。この文章は、賢治が最後に書いた部分に含まれますから、時期的に矛盾しませんし、工事は長くかかっていましたから賢治は工事中にも見ているでしょう。北上川にかかるこの橋はワーレントラス橋と言って、鉄骨でやぐらを組んだみたいな外観を持っています。かけかえ前の朝日橋が、欄干のついた昔ながらの木橋だったので、新橋の鉄骨のやぐらが特に目立ったのです。

「ぼんやり立って」いたという表現に、ジョバンニの心にきざした不安感、悲劇の予感のようなものが感じられますね。橋に近づくにつれて、それは的中し、人だかりがみえ、人々は子供が水に落ちたと話しているのでした。

ワーレントラスなどトラス橋といわれる三角形を組み合わせたやぐらのような橋は、ヨーロッパで生まれ世界中に拡がりました。ジョバンニの街が欧米風なので、賢治はこの橋を物語に入れたのです。



漫画「銀河鉄道の夜」で描かれた朝日橋

出典：「銀河鉄道の夜」原作：宮沢賢治
作画：ますむらひろし　発行:風呂猫

出典：賢治メルヘンの街・花巻ガイドブック（花巻商工会議所）

Ⅲ. 地域における課題・必要性

①水上アクティビティの利便性と魅力の向上

水上アクティビティを通じた花巻温泉郷との連携

■「第２次花巻市まちづくり総合計画　前期アクションプラン」、「花巻観光振興ビジョン」では、観光の魅力向上のために、北上川の水上アクティビティと花巻温泉郷を結びつけて滞在時間を延ばすことを重点プロジェクトに位置付けているが、注目度は高いものの、多用な利用者層を含む団体客等の受入れ施設が不足していることから利便性の向上と魅力向上を図る必要がある。

（１）船等のスタート地点（銀河大橋たもと）の利便性の向上

■現状で使用されている川下りのスタート地点の銀河大橋たもとでは、主にボートなどが利用されているが、自然河岸からの乗り降りのため、利便性と安全性に欠けている。

■多くの利用者を乗船させるためには、大型バスでの来場の可否が考えられるが、現地の状況は、駐車場や転回所のポテンシャルは有するものの、現在は荒れ地となっている。

船着場の無い河岸からの発着

駐車場整備のポテンシャルが高い候補地（転回スペースも十分確保できる）

（２）休憩地点の設置による魅力の向上

■現状行われている川下りは、途中、泥岩層の観察や早瀬の手漕ぎ体験などの水上アクティビティが充実しているが、途中の休憩地点は川下りルート序盤の１箇所のみ（イギリス海岸付近）。約２時間の舟下りには、もう１箇所休憩地点がほしい。

■休憩地点は、「ただ、船着き場があればいい」のでは無く、上陸した際に休息が出来たり、観光などが同時に出来るなど利用者が利便性・魅力を向上させる計画が必要。

水辺を見ながら座れるベンチのイメージ

（３）船等のゴール地点（花巻スポーツランド近辺）の利便性の向上

■この川下りのゴール地点としては、花巻スポーツランド近辺にある船着き場が最有力であるが、その周辺には、更衣室やシャワー施設などが無く、今後、利用者数の増大を目指すのためには、疲れた体を癒すような施設整備の計画が必要である。

シャワーの整備イメージ

②北上川河川敷の利用環境の充実

（１）既設の堤防法面の利活用

■朝日橋上流部～朝日大橋の右岸河川敷では、毎年、県内屈指の花火大会が開催されており、堤防の傾斜を活かした観覧席の設置が望まれている。この堤防には既存の階段護岸があるが、消防署の指導により避難路と位置付けられているため、観覧席としての利用が出来ない状況にある。

■同河川敷の利活用としては、その他のイベントでは、消防演習大会やデコトラ撮影会などがあり、将来的には、花巻市で構想のある河川敷で行われる様々な社会実験も計画されており、多くの観覧席が必要となる。

■その中でも、やはり、最も来場者数を集めるイベントは花火大会。花巻市で一時占用して整備する桟敷席には、来場者が先着順で利用されており、毎回完売している状態。1700席の桟敷席は、あっという間に満席となる。

■R6年度来場者数は約2万4000人おり、全ての観覧席を用意することは難しくても、北上川河川敷の利用環境を充実させる必要がある。

北上川河川敷で開催される花火大会

イベント時、既存の階段護岸は避難路としか利用できないため、観覧席にはならない

（２）トイレ設置のニーズ

■当該河川敷近辺へのトイレ設置の要望がある。

堤防の小段に桟敷席を設けている

②北上川河川敷の利用環境の充実

（３）一般車両が利用できる坂路が１か所（朝日橋下流右岸）

■100台の消防車や大型車が集まる規模の消防演習が実施されているが、車両の出入口となる坂路が１か所しかないために、消防関係者より大型車が通行できる坂路増設についての要望がある。

■また、通常時も河川敷の利用者は多く、河川巡視等においても車両や人とのすれ違いの機会も多く、更に、イベント時には多くの車と人が錯綜して危険であり坂路の拡幅が必要。

坂路の幅が狭い

（４）一般車両が利用できない坂路がある（朝日橋上流右岸）

■朝日橋上流右岸に坂路があるが、普段堤防天端を多くの歩行者が利用していることから、現在は一般車両が利用できない（花巻市で安全上の理由から通行止めにしている）。

■大きなイベント時には、事前に往路・帰路ルートのチラシを配布するなどの周知を行うとともに、交通誘導員の配備を行うなど、安全対策を十分に行い、この坂路を利用する計画とする。

河川敷と堤防を結ぶ坂路が２か所あるが
１か所しか一般車両が出入りできない

③水辺プラザ（イギリス海岸）の改良

（１）泥岩層の観察スポットの整備

■水辺プラザは全国的に有名なイギリス海岸を見るために多くの観光客が訪れる観光地。
■賢治がそう呼んだことで有名な「イギリス海岸」。かつては頻繁に泥岩層が露出していたが、上流のダム整備により北上川の水量が安定したことや河床が低下したこと等により、現在は余り見ることが出来ない。花巻の重要な観光資源であることから、ダム管理者（国土交通省、岩手県）と発電事業者（岩手県、東北電力（株）、電源開発（株））と沿川自治体（盛岡市、花巻市）が協力して、発電で使う水を減らし、川の水位を下げて、賢治の命日である9月21日に泥岩層を露出させる試みを行っている。
■このような水位操作により出現するイギリス海岸であるが、水量の少ない時期など、水位低下時については出現することもある。しかし、せっかく出現しても泥岩層を見れる視点場がごく一部に限られている上、河畔林などにより眺望環境にも優れていないため、観察し易い複数箇所の視点場の整備が望まれている。

出現する場所によっては
見えづらい泥岩層

そもそも出現がしづらいイギリス海岸
水位低下により出現する泥岩層

水位上昇によって泥岩層が見えないイギリス海岸

水位を低下させて泥岩層が出現した
イギリス海岸

（２）瀬川階段護岸のステップの段差が大きい

瀬川左右岸に整備されている階段護岸はステップの段差が大きく、子供や女性に対しての利用しやすさも重視した構造への改良が望まれている。

水辺プラザの階段護岸

（３）トイレ

公共用トイレは和式トイレであり、洋式化を求める声が多い。

水辺プラザ詩の森公園のトイレ

イギリス海岸付近さわやかトイレ

④日常的な水辺利用の活性化

日常利用が少ない

■右岸堤防上には桜づつみとして、桜並木と遊歩道が整備されており、散歩・犬の散歩・ランニング及びサイクリングなどの日常的な利用が散見される。

北上川桜づつみ

ランニング

散歩

犬の散歩

サイクリング

ジョギング

水切り

日常的な利用のイメージ

■一方で北上川が中心市街地の端に位置するため、多くの人で賑わう状況とはなっておらず、より多くの人に利用してもらえるようにしていくことが望まれる。

⑤賢治ゆかりの資源の効果的な活用

あまり知られていない賢治ゆかりの資源がある

■賢治ゆかりの「イギリス海岸」は認知度が高く、多くの観光客が訪れる場所となっている。
　しかし、賢治の作品「銀河鉄道の夜」に登場する橋のモデルとされる朝日橋周辺や、再生された「賢治自耕の地　『下ノ畑』」などは認知度が十分ではない。

■花巻観光振興ビジョンでは賢治をはじめとする先人を学ぶツアーなど地域資源を生かした各種のプログラムの創出が謳われていることから、かわまちづくり計画でも、この資源を利用した賑わいあるかわまちづくりを目指す必要がある。

「銀河鉄道の夜」に登場する橋のモデルとなった朝日橋

「下ノ畑」の栽培状況

「下ノ畑」で整備された賢治設計の花壇「涙ぐむ目」

⑥「花のまち」としてのＰＲ

■「花巻観光振興ビジョン」では「花」が季節ごとに楽しめる場所や、花巻の良さを感じられるスポットが整備・周知され、多くの旅行者が訪れる状況を目指し、花巻を「花のまち」としてPRしていくことが重点プロジェクトに位置づけられている。花巻水辺プラザで実施されている市民団体による花壇の管理のような活動のさらなる展開が望まれている。

花巻水辺プラザで市民団体が管理している花壇

⑦花巻温泉郷と水辺の連携

■「花巻観光振興ビジョン」では、ラフティングなどの自然体験や賢治をはじめとする先人ツアーなどの地域資源を生かした各種プログラムを創出し、温泉滞在と組み合わせることで魅力を向上させることが位置付けられている。

■岩手県管理の北上花巻温泉サイクリングロードは、花巻温泉と北上川を結ぶルートとなっており、このルート上に「かわまち」「花巻温泉郷」「自然体験」「宮沢賢治」など、花巻特有の地域資源のサインなどを充実させることが出来れば、認知度向上に繋がる。

■花巻市街地を含む「かわまち」と「花巻温泉郷」の観光ツアーが充実すれば、花巻温泉郷の利用客を花巻市内に呼び込めるため、市街地の活性化に大きく寄与する。

北上花巻温泉サイクリングロード
河北新報社提供

Ⅳ. 花巻地区かわまちづくり基本方針

〔テーマ〕

「北上川・北斗7星プロジェクト（７つの輝きづくり）」

①花巻地区かわまちづくり基本方針

花巻地区かわまちづくりは、対象地の主要な資源を結ぶ北上川右岸の形状が北斗七星のように、花巻温泉郷がカシオペア座のように見えることや、花巻市ゆかりの偉人、宮沢賢治が星を題材とした作品を数多く残していることから「北上川・北斗七星プロジェクト（７つの輝きづくり）」と称し、７つの基本方針を位置付ける。

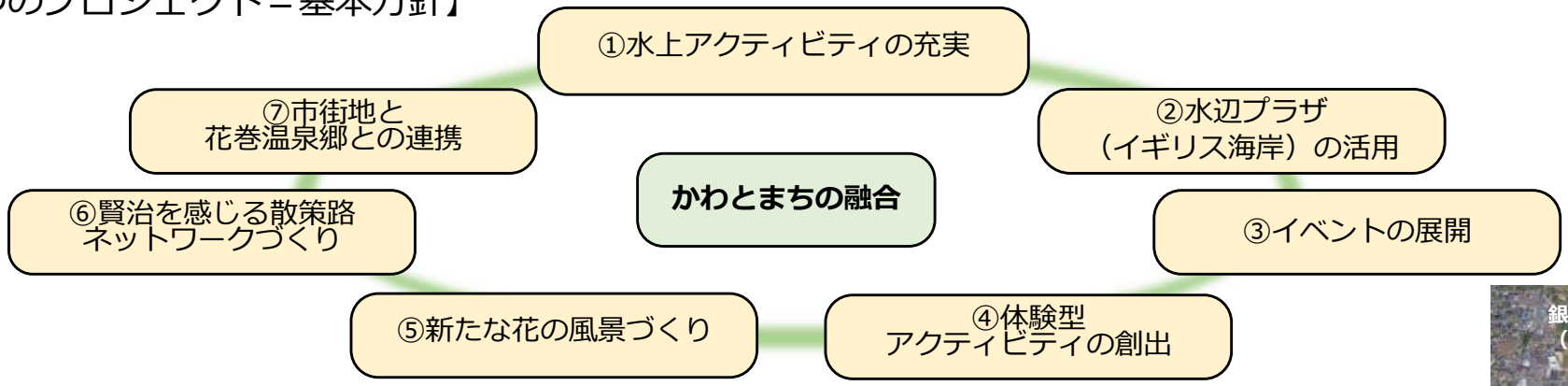
〔テーマ〕「北上川・北斗7星プロジェクト（７つの輝きづくり）」

【課題】	【７つのプロジェクト＝基本方針】
①水上アクティビティの利便性と魅力の向上	①水上アクティビティの充実
②北上川河川敷の利用環境の充実	②水辺プラザ（イギリス海岸）の活用
③水辺プラザ（イギリス海岸）の改良	③イベントの展開
④日常的な水辺利用の活性化	④体験型アクティビティの創出
⑤宮沢賢治ゆかりの資源の効果的な活用	⑤新たな花の風景づくり
⑥「花のまち」としてのPR	⑥賢治を感じる散策路ネットワークづくり
⑦花巻温泉郷と水辺の連携	⑦市街地と花巻温泉郷との連携

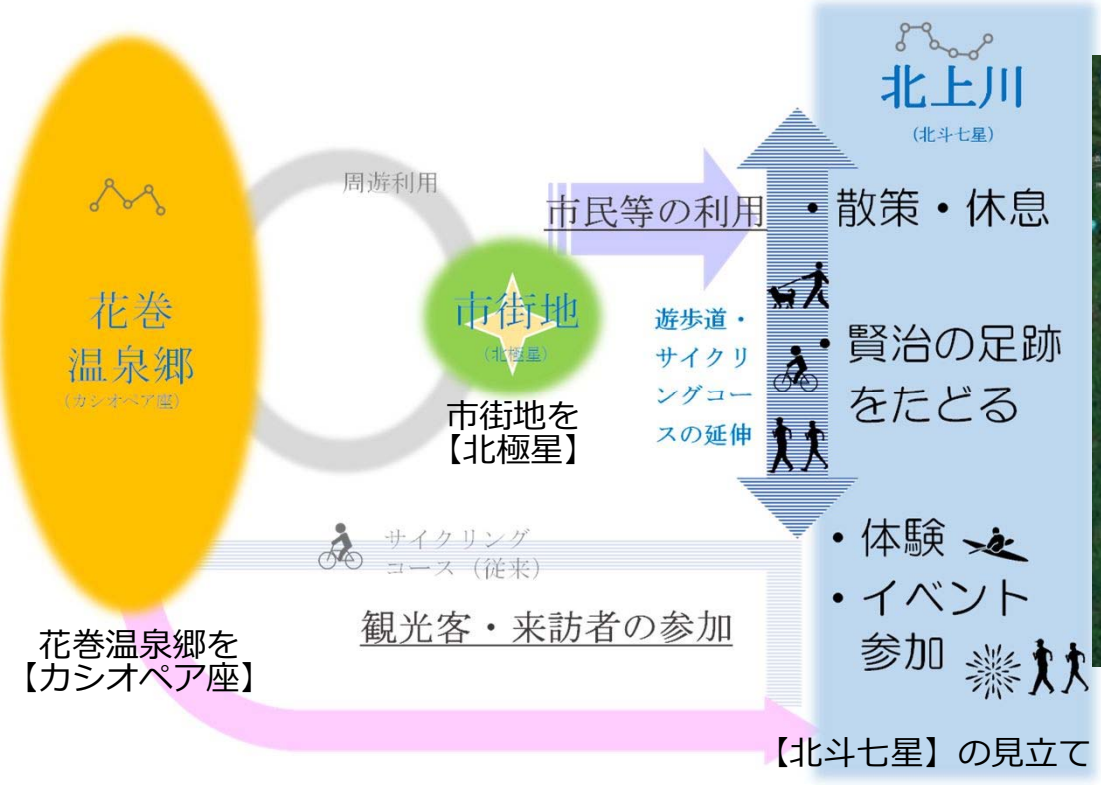
社会実験の展開

①花巻地区かわまちづくり基本方針

【７つのプロジェクト＝基本方針】



七つの輝きづくり（北斗七星）と結ぶ
市街地（北極星）・温泉街（カシオペア座）の事業推進イメージ



花巻温泉郷を【カシオペア座】
に見立てる

本計画を
【北斗七星】
に見立てる

②地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標等

かわまちづくりを推進することで「交流人口」の拡大を目指す

①水上アクティビティ利用者数（市民及び市外からの来訪客利用）
［現状］約700人/年（令和４年・花巻スポーツランド）出典：花巻スポーツランド資料
→既存事業者の支援（修学旅行等の団体等の受け入れを容易にする船着き場、更衣室、シャワー等の整備）新規事業者の発掘等により**約1,000人/年**の利用者を目指す。
（観光客数 1,574,283(R4)を 2,223,473(H28(過去最高)）並みに戻す（1.4倍）

②河川敷におけるイベント開催数（主として市民利用）
［現状］2回/年（花火ファンタジー・消防演習）
→階段護岸や坂路の拡幅などの整備により、隣接する中心市街地の上町との新たな空間が形成され、中心市街地活性化のために現在行われているイベント（社会実験）と連携して行うことで**５回／年以上**の河川敷の利用を目指す。（花巻中央エリア社会実験の実施回数５回／年の実績より）

③花巻温泉郷と水上アクティビティなどを両方利用した利用者数
（主として市外からの来訪客）
［現状］約100人/年（令和５年） 出典：花巻スポーツランド資料
→かわまちづくりを進め、水辺のアクティビティやイベントなどと温泉の利用者を結びつけることで、**約200人/年**の利用者を目指します。（花巻温泉郷と水辺体験をセットにした商品をつくることで倍増を目指す）

④観光環状バスの利用者数（主として市外からの来訪客）
［現状］約5.1万人/年（令和４年）出典：政策評価シート(令和4年度実績評価)
→観光環状バス等について、賢治関連資源（イギリス海岸等）の魅力アップ、PRを強化することで**約６万人/年**の利用者を目指す。（令和4年度実績評価の目標値）
※賢治関連の観光資源は花巻市街地の広い範囲に分散して存在しており、これらをPRすることで将来的には様々なツアーが組まれ、観光環状バスの利用者増大が見込める。観光環状バス利用者数増大は、かわまちへ利用者の増大に繋がる。

Ⅴ. 推進体制

①計画策定体制

計画策定にあたっては「花巻地区かわまちづくり計画策定に向けたワークショップ」においてワークショップを行いアイデア出しを行った後、「花巻地区かわまちづくり計画策定協議会」を組織して計画について協議した。

花巻地区かわまちづくり
計画策定協議会

分野	団体名
学識者	富士大学
利活用	北上川フィールドライフクラブ、ミズベリング花巻
商工・観光	花巻商工会議所、花巻青年会議所、花巻観光協会 花巻温泉郷観光推進協議会
地域住民	豊沢町振興会、里川口自治会、小舟渡自治会
事務局	花巻市：商工観光部観光課、建設部道路課・都市政策課、生涯学習部賢治まちづくり課
アドバイザー	岩手河川国道事務所

花巻地区かわまちづくり
計画策定に向けたワークショップ

分野	団体名
利活用	北上川フィールドライフクラブ、ミズベリング花巻、ドーバーファーム市民の会、宮澤賢治「下の畑」保存会
商工・観光	花巻商工会議所、花巻青年会議所、花巻観光協会
地域住民	市民（公募等）
行政	花巻市：商工観光部観光課、建設部道路課・都市政策課、生涯学習部賢治まちづくり課 国土交通省岩手河川国道事務所

②計画策定経緯

第１回花巻地区かわまちづくり計画策定に向けたワークショップ

日時　令和５年１１月２９日(水）１０：００～１１：３０
場所　花巻市役所本館　３０２・３０３会議室

■主な意見
【銀河大橋～イギリス海岸】
・水上アクティビティの充実
・河川空間への民間事業導入
・花巻水辺プラザのリニューアル
・イギリス海岸の“見える化”

【イギリス海岸下流部
～朝日橋周辺】
・河川敷における様々なイベントの実施
・河川空間への民間事業の導入
・共同作業での草刈りの実施

開会の挨拶

【朝日橋下流部
～花巻スポーツランド】
・食の体験
・水上アクティビティの充実
（カヌー、SUP、ラフティング体験・川下りイベント）

第２回花巻地区かわまちづくり計画策定に向けたワークショップ

日時　令和６年２月２９日(金）１３：３０～１５：２０
場所　花巻市役所本館　３０２・３０３会議室

■主な意見
【銀河大橋～イギリス海岸】
・銀河大橋たもとへの桟橋の整備
・イギリス海岸・水辺プラザの魅力アップ
・泥岩層を見る機会の創出
・イギリス海岸桜まつりの実施

【イギリス海岸下流部
～朝日橋周辺】
・朝日橋周辺の活用をまず考える
・BBQイベント
・トイレと駐車場の整備・階段護岸の整備

ワークショップ実施状況

【朝日橋下流部
～花巻スポーツランド】
・食の体験による下ノ畑の活用

第１回花巻地区かわまちづくり計画策定協議会

日　時　令和６年７月５日(金）１４：００～１６：１０
場　所　生涯学園都市会館（まなび学園）２階　第１中ホール

■主な意見
・花巻の北上川はいろいろな体験ができる魅力的な水辺である。
・観光客だけでなく住民が川をつかえることが重要。
・イベントの目標数については参加人数ではなく開催回数にする。

・現在、水上アクティビティの体験活動に参加するのは全て県外。
・イギリス海岸の活用が最も重要。
・計画を登録した後でも状況に応じて計画内容を変更することは可能である。
・この会議はかわまちづくりの方向性を決める会議で、ここに書いてなければ何もできないというものではない。
・河川のオープン化の手続きを踏んで民間活力の導入を考えていくべき。
・花巻には名物がないので、何かできると良い。

第２回花巻地区かわまちづくり計画策定協議会

日　時　令和６年９月３０日(月）１４：００～１６：００
場　所　花巻市役所本館　３０２・３０３会議室

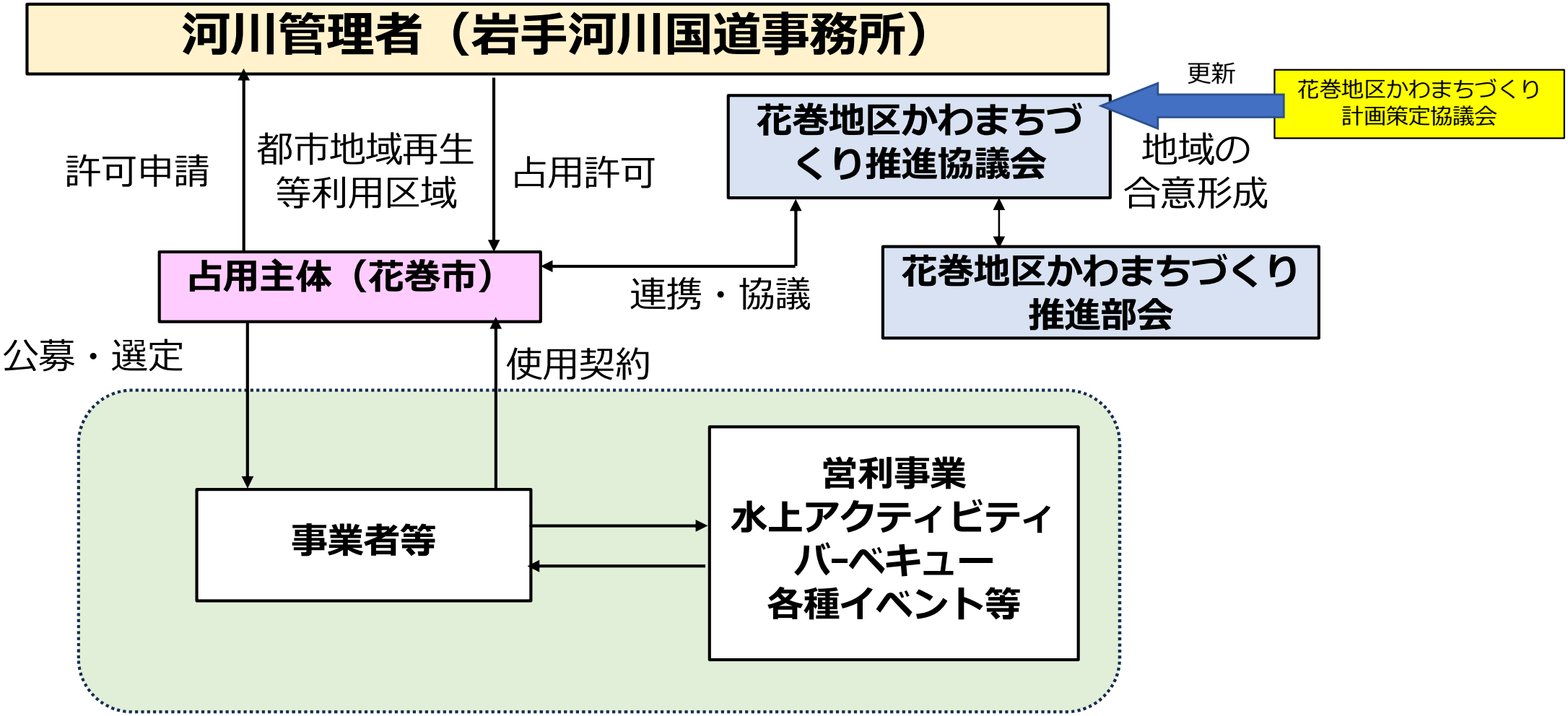
■主な意見
・イベントの定義について、例えば、参加者を募る一斉清掃などはイベントに数える。
・イギリス海岸におけるさくら祭りの提案があるがゴミは主催者で回収するように。

・河川敷で今後イベントを開催する計画ならば堤防へのトイレの設置も検討する。
・計画の推進にあたっては、引き続き推進協議会で検討していく必要がある。
・イギリス海岸をアピールするアイデアについては引き続き考えることとする。
・計画に大きな変更が生じた場合は、対面で協議会を開催するが、軽微な変更に場合は、書面開催とする。

③地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する多様な関係者との連携・取組内容

【かわまちづくりの推進体制】

計画策定後は「花巻地区かわまちづくり計画策定協議会」を「花巻地区かわまちづくり推進協議会」に更新して計画策定体制を踏襲する。また、事業者等を加えて事業実施や社会実験等に対応できる体制を構築する。



Ⅵ．その他取組内容

①安全な河川利用に向けた取組

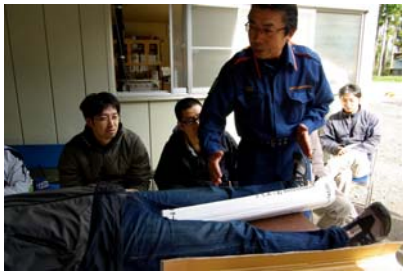
■かわまちづくり計画の基本方針の一つ、水上アクティビティの主要活動団体である花巻スポーツランドでは、これまでにもカヌーやボートなど多くの利用者を受け入れており、かわまち計画で船着き場を増やすことで、利用者の増加が予想されることから更なる安全管理に向けた取り組みが重要。

■花巻スポーツランドの代表は、全国リバーマスターの資格を所有。所属する北上川フィールドライフクラブ(民間団体)では、体験活動の場で活躍できる「川の達人」の育成を目的に「リバーマスタースクール」を開講している。
体験活動の指導者・スタッフはこれらの安全講習会を受講しており、今後増えると予想される利用者に対応して増員されるスタッフに対して継続して安全管理の指導を実施していく。

■更には、地元消防署職員が北上川フィールドライフクラブへの直接指導も行っており、安全管理は万全である（消防署職員は消防大学校で3ヶ月の訓練を受け救急救助課程を修了している）。
※施設代表も元消防職員である。

■これらの指導者の下、カヌーやボートで遊びに来る利用者に対しての安全に関する講習を行っており、今後も継続していく。

国交省と北上川流域連携交流会で作成した
川の安全利用に関するパンフの抜粋


消防職員による救護講習会の状況

リバーマスタースクールの開講状況

リバーマスタースクールの開講状況

利用者に対する安全管理の説明状況

消防職員による救護講習会の状況

消防職員によるロープワーク講習状況

カヌーの技術講習も兼ねた安全講習

②都市・地域再生等利用区域の指定に関する取組

■都市・地域再生等利用区域の指定に関する取組については、一般公募する形で市民に限らず広くアイデアを公募して、まず社会実験の形で取り組みを始める。

■かわまちづくりの整備により更なる利活用が望める朝日橋周辺の右岸河川敷及び側帯天端での実施を社会実験の場所として一番に考える。

■但し、花巻地区の場合は候補地が多くあるため、場所を決めずにアイデアを募集するなどの工夫を行う。

【例えば】
桜を植栽するために堤防に腹付けされた側帯を活用して出店するなど社会実験を行う

«他地区の社会実験の例»

階段護岸（花火大会）

ミュージックフェスティバル

かわまちマルシェ

ワークショップで提案された社会実験の案

●船上での花見
●花火見物
●イギリス海岸遊覧船の運航（猿ケ石川で泥岩層を見学）
●音楽フェス
●水上コンサート
●バイクミーティング
●キャンプイベント
●水鉄砲サバイバルゲーム
●芋煮会
●賢治をテーマとしたオリエンテーリング
●北上展勝地まで１泊2日で下るカヌーツアー
●日本一（規模ｏｒ肉質）のバーベキュー

③生物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出に関する取組

■花火大会の打ち上げ会場として利用されている北上川河川敷前の中州周辺の環境は、自然に形成された「瀬」と「淵」を有しており、川岸にはレキ河原が存在するなど、北上川の他の川岸にはあまり見られない貴重な環境であることから、小学生の水生生物調査に利用されるなど環境学習の場となっている。

■花火の打ち上げ会場としても利用されている北上川河川敷前の中州については、小学校の水生生物調査のフィールドとなっている。

レキ河原の多い中州周辺の環境を利用して、毎年地元小学生による水生生物調査が継続的に実施されている。

花火大会打ち上げ会場として利用されている中州の航空写真

水生生物調査時に設置される仮設の渡河施設

Ⅶ. ソフト施策の個別施策計画

①水上アクティビティの充実

既存の活動の継続

- ■動力船の牽引によるゴムボートを使ったガイド付き河川遊覧
  （銀河大橋～花巻スポーツランド近辺の船着き場）
- ■カヌーやボートを使った川下り（北上川・十二丁目沼等）
- ■川沿いにあるイギリス海岸や下ノ畑など賢治ゆかりのポイント訪問（水上ルート）
- ■カヌーやボートを使った水上自然観察会（猿ヶ石川合流部周辺、下ノ畑周辺、その他）
- ■ライフジャケットを着用して川流れ体験
- ■水辺での川遊び（花巻スポーツランド周辺）
- ■トラクター牽引トレーラーでの水辺遊覧探索

ゴムボートを使った河川遊覧
（猿ヶ石川の泥岩層観察）

川流れ体験

②水辺プラザ（イギリス海岸）の活用

既存の活動の継続

- ■賢治とイギリス海岸に関するパネル展（ドーバーファーム市民の会が年に数回実施）
- ■ドーバーファームで採れた野菜の収穫祭（ドーバーファーム市民の会が毎年実施）

新たな活動の検討

- ■天文サークルの協力を得るなどして、賢治の著作に登場する星座の話を交えながら星空観察会
- ■桜づつみを活用したさくら祭り

賢治作品をモチーフにしたモニュメント

③イベントの展開

開催されているイベント等の継続（主として北上川河川敷）

- ■花火ファンタジー（イーハトーブフォーラム）
- ■デコトラ撮影会
- ■消防演習
- ■中洲での水生生物調査

新たな河川敷利用の検討（主として北上川河川敷）

- ■キャンプイベント
- ■バーベキューイベント
- ■桜づつみを活用したさくら祭り
- ■積雪期の雪遊び

積雪期の雪遊び（事例）

④体験型アクティビティの創出

新たな体験型のアクティビティを活用できる場として『下ノ畑』を検討

■北上川に隣接する「賢治自耕の地『下ノ畑』」における休憩・農業体験等の継続と新しい体験型アクティビティの検討
■元々行われている地元小学生を対象とした収穫体験会について、参加対象を拡大して、収穫体験会でのキッチンカーなどによる試食大会の開催。
■チェアリング（簡易な可搬イスでくつろぐ）

キッチンカー（一関市）

⑤新たな花の風景づくり

市民による花壇の整備の継続

■ドーバーファーム市民の会による花巻水辺プラザの花壇の整備の継続。
■宮澤賢治「下の畑」保存会による「下ノ畑」の花壇等の整備の継続。

水辺の花壇・アドプト制度の検討

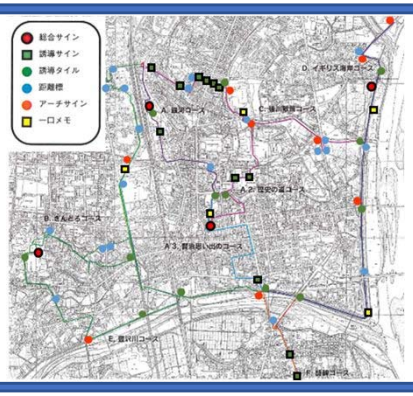
■水辺に花壇を設けて管理運営する主体を募集。

河川法面に花壇を設置している事例
北上川（盛岡市）

⑥賢治を感じる散策路ネットワークづくり

「かわ」と「まち」を繋ぐ、散策路ネットワークづくり

■桜並木の遊歩道と、賢治の川沿い・中心市街地に点在する資源をつなぐネットワークづくり（朝日橋、下ノ畑等）によって川沿いや公園の散歩、ランニング、犬の散歩等の日常利用の普及・促進を図ると同時に観光客にも楽しんでもらえるコンテンツとする。


ウォーキングトレイル事業で整備された案内サイン

⑦市街地と花巻温泉郷との連携

北上花巻温泉サイクリングロードのＰＲ

■サイクリングロードをＰＲするマップを作成。

花巻温泉郷と水上アクティビティをセットにした商品づくり

■花巻温泉郷と水上アクティビティをセットにした旅行商品づくりを実施。

Ⅷ. ハード施策の個別施策計画

ハード整備の全体計画図

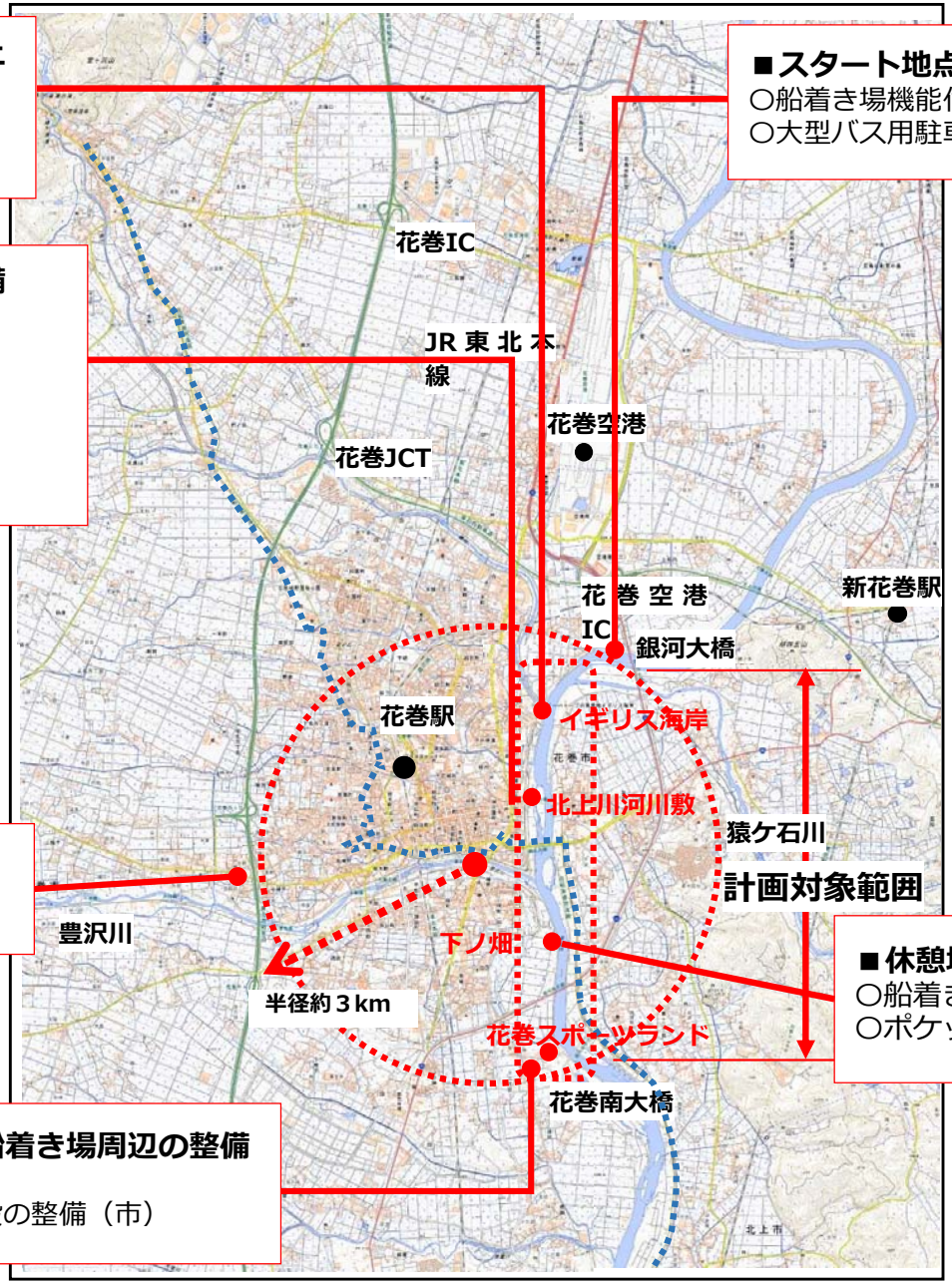
■水辺プラザ（イギリス海岸）の利便性向上
○階段護岸の改良（国）
○トイレの高質化（市）
○イギリス海岸の見える化（市）

■北上川河川敷の利用環境充実のための整備
○坂路拡幅（国）
○観覧席となる階段護岸の拡幅（国）
○河川敷の管理用道路の舗装（国）
○常設駐車場の整備（市）
○堤防上へのトイレの設置（市）
○広場の整備（市）

■社会実験の展開（市・民間事業者）
○カフェの設置（イギリス海岸など）
○水辺プラザ周辺の空き地の活用
（キャンプ場、ドッグラン等）

■賢治を感じる散策路ネットワークづくり
○案内板の整備（市）

■ゴール地点！花巻スポーツランド近隣の船着き場周辺の整備
○管理用通路舗装（国）
○水上アクティビティの体験活動を支援する施設の整備（市）



■スタート地点！銀河大橋たもとの整備
○船着き場機能付きの低水護岸の整備（国）
○大型バス用駐車場及び転回場の整備（市）

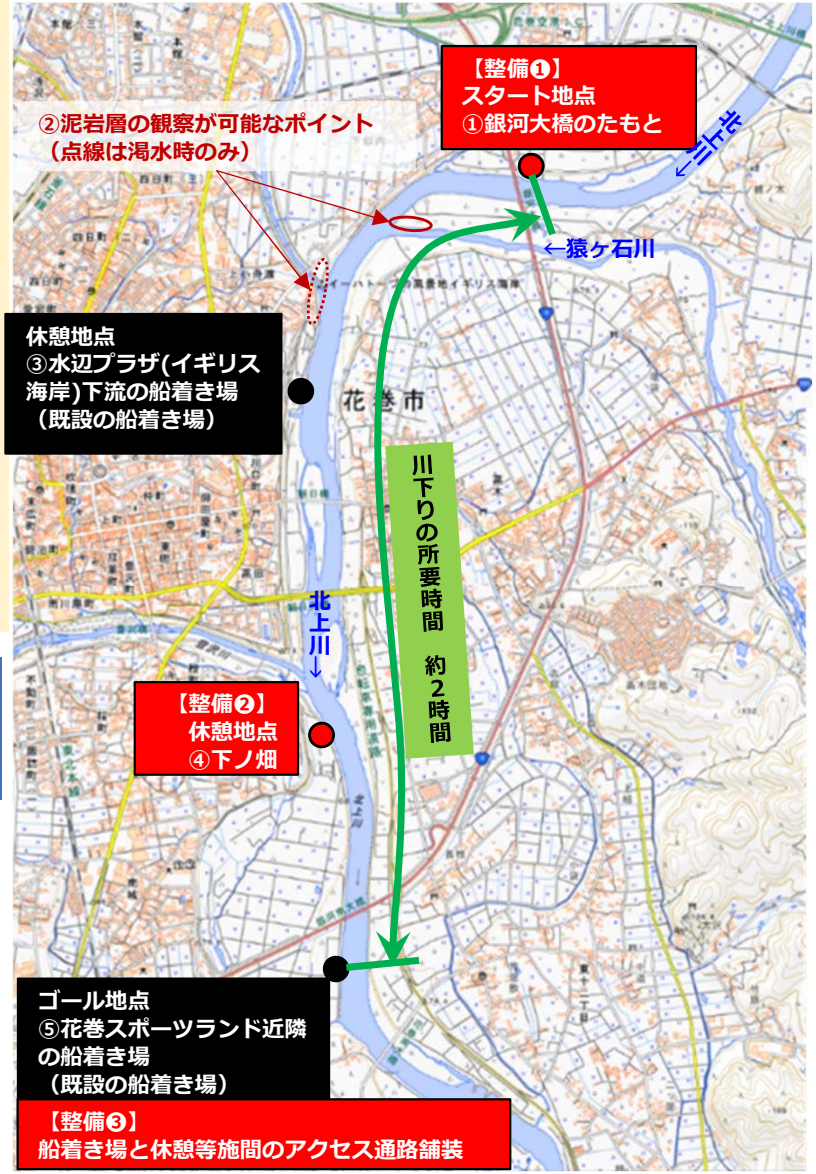
■休憩地点「下ノ畑」の施設整備
○船着き場機能付きの低水護岸の整備（国）
○ポケットパーク施設整備（市）

［基本方針］①水上アクティビティの充実、④体験型アクティビティの創出

～見どころいっぱい！約２時間の川下り～

①銀河大橋のたもと
　花巻市の北上川において川下りのスタート地点として、現状で最も利用されている、『銀河大橋のたもと』をスタート地点とするため、船着き場機能付きの低水護岸を整備。
②泥岩層観察ポイント
　銀河大橋をスタートした川下りは、途中、猿ヶ石川の合流点や瀬川合流点付近で、イギリス海岸で有名な泥岩層を観察することが出来る。
③水辺プラザ下流の船着き場
　水辺プラザとして整備されたイギリス海岸近辺には、既設の船着き場が有り、ここで一度下船して水辺プラザの観光をすることが出来る。
④下ノ畑
　更に下流へ下ると『下ノ畑地区』があり、ここに船着き場機能付きの低水護岸を整備することで、休憩出来る立ち寄りポイントとなる。ここでは花巻市が四阿やベンチなどを整備することでポケットパークのような環境としたいと考えている。また、賢治自耕の地『下ノ畑』としての観光も可能である。
⑤花巻スポーツランド近辺の船着き場
　川下り計画の最後のポイントである、花巻スポーツランド付近の既設の船着き場で下船し、花巻市で整備する予定のトイレ・シャワーなどの休憩施設で、川下りの疲れを癒す。

水上アクティビティの充実を図るための北上川の川下り計画



（１）花巻市の北上川での川下り計画
～かわまちづくりでの整備内容～

【整備❶】
スタート地点の施設整備
河岸には船の上下架と乗降りがスムーズ且つ安全に出来るよう船着き場を整備。大型バス複数台での来訪しても錯綜しないよう転回所と駐車場も整備。

【整備❷】
休憩地点の施設整備
川下り所要時間２時間の休憩ポイントとして、下ノ畑に船着き場を整備。船着き場を降り休憩出来るような四阿やベンチを整備。

【整備❸】
ゴール地点の施設整備
川下りのゴール地点には既設の船着き場を利用する。
川下り後は川下りの疲れを癒すためのシャワー・更衣室を整備。
アクセス通路としても利用できる管理用通路の舗装も行う。

現在も受け入れている修学旅行生などの促進・多様な利用者層の取り込みによる活性化

（2）スタート地点！銀河大橋のたもとの整備【国・市】

※青文字は河川管理上の理由

【整備❶】船着き場機能付きの低水護岸の整備（国）

■河川管理者が行う水面からの河川巡視を行うにあたり、この箇所は、河岸が緩やかに水面に擦り付いていながら、水際はある程度の水深が確保されている。この近辺では他の箇所に比べると巡視用ボートの設置、接岸及び巡視員の乗降に長けていることから河川巡視強化のための船着き場施設の設置が望まれている。
■現状の水上アクティビティのスタート地点として最も活用されている銀河大橋のたもとに船着き場を整備することで、少人数から団体までの利用者に対して、安全でスムーズな船への乗降が可能となる。
■ここから出航することで、すぐ下流にある猿ヶ石川合流点の泥岩層露出部や、賢治が名付けたことで有名なイギリス海岸を見ながら川下りを行えるため、スタート地点として理想的である。

スタート地点付近の位置図

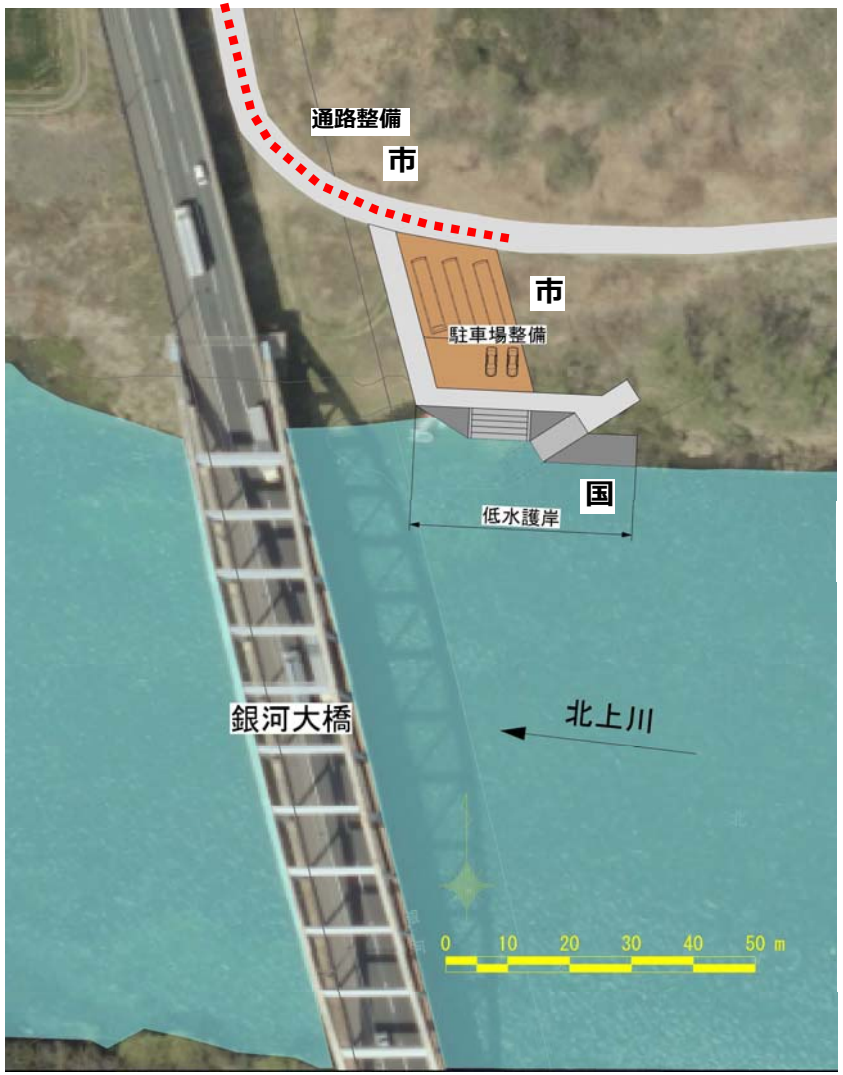
船着き場のイメージ（もりおか港）

【整備❷】大型バス用駐車場及び転回場の整備（市）

■周辺の河川敷には、既存のアクセス動線があり大型バス複数台分の駐車場を整備可能である。

駐車場整備のポテンシャルが高い候補地（転回スペースも十分確保できる）

船着き場機能付きの低水護岸整備イメージ



船着き場機能付きの低水護岸の整備イメージ

（3）休憩地点「下ノ畑」の施設整備【国・市】

※青文字は河川管理上の理由

【整備❸】船着き場機能付きの低水護岸（国）

■前述した銀河大橋のたもとと同様、本箇所は巡視船の設置、接岸及び乗降りに長けており河川巡視強化のための船着き場設置が望まれている。

■また上陸すれば重要な文化資源である賢治自耕の地『下ノ畑』があり、河川洗堀による消失が無いよう河川管理施設の整備が求められている。

■2時間の川下りルートの途中にある、賢治自耕の地「下ノ畑」を休憩地点として整備する。

「下ノ畑」で栽培している野菜

宮沢賢治設計の花壇「涙ぐむ目」

（イメージ）水辺を見ながら座れるベンチを設置

【整備❹】ポケットパーク施設整備（市）

■下ノ畑に北上川を眺めながら休息可能なポケットパークを設けることで、観光立ち寄り地点としての魅力を向上させることができる。

■近隣には賢治関連の観光資源が多数あり観光も可能。

■既存の水上アクティビティに大きな魅力を付加させることができる。

「下ノ畑」周辺には賢治が暮らした「羅須地人協会跡地」、「雨ニモマケズ詩碑」などがあり、**これらをPRして観光資源としてアピール**する他、**賢治も見ていたであろう北上川やその遠くに見える岩手山・早池峰山を眺望できる場所としたい**。

下ノ畑を含む賢治関連の観光資源

船着き場機能付きの低水護岸の整備イメージ

（４）ゴール地点！花巻スポーツランド近隣の船着き場周辺の整備【国・市】

※青文字は河川管理上の理由

【整備❺】管理用通路舗装（国）

■船着き場から休憩施設までのアクセス通路として、既往の管理用通路を利用することから利便性を向上させるためにアスファルト舗装を行う。

管理用通路の未舗装の坂路

【整備❻】水上アクティビティの体験活動を支援する施設の整備(市)

■現状、川下りのゴール地点として、花巻スポーツランド近辺にある船着き場が最も利用されている。

■花巻地区全体の水上アクティビティの利便性と魅力を向上させ、団体客をはじめ多様な利用者層の招致を進めるためには、スタート地点の船着き場の整備と併せて、ゴール地点周辺についても受入れ施設を充実させることが重要である。

■川下り後に利用者が疲れた体を癒せるよう、シャワー室・更衣室・トイレなどの休憩施設を整備する（花巻市）。

シャワーの整備イメージ

管理用通路舗装、便益施設の整備イメージ

施設名称	場所	目的		諸元
		治水上の必要性	河川利用上の安全安心に関する必要性	
【整備❶】管理用通路	北上川右岸 花巻南大橋下	管理用車両の通路、巡視ルートの強化	既設の船着き場と整備予定のトイレなどの便益施設の間を歩行者が安全に通行できるよう舗装整備	W≒5.0m（現況の未舗装道路幅相当）、L≒140m

［基本方針］②水辺プラザ（イギリス海岸）の活用

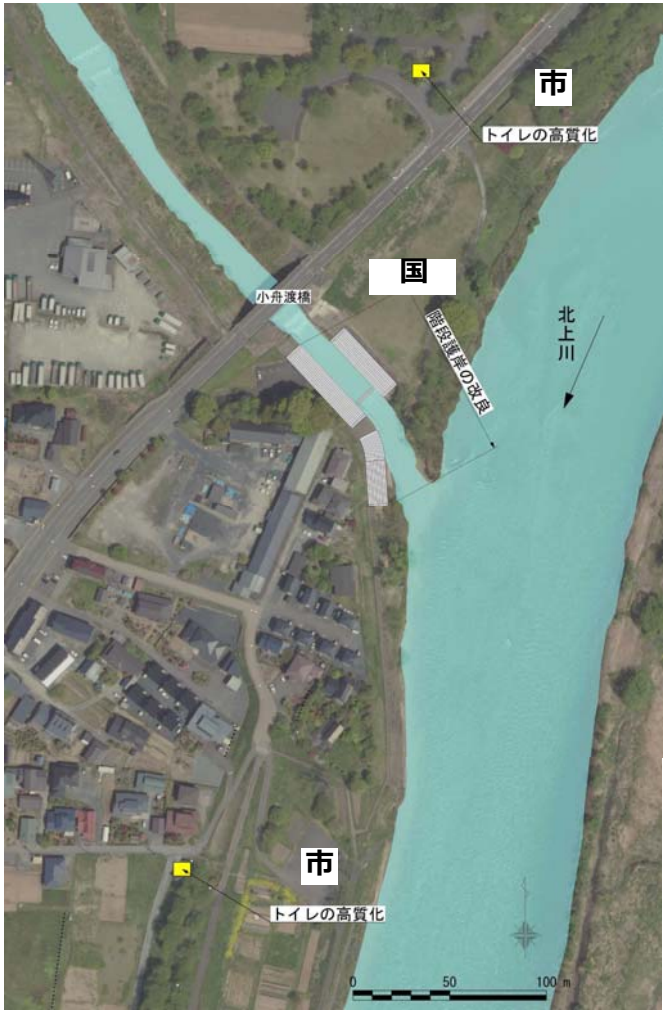
（２）水辺プラザ（イギリス海岸）の利便性向上【国・市】

※青文字は河川管理上の理由

【整備❶】階段護岸の改良（国）

■ステップの段差が大きい水辺プラザの階段護岸については、全ての利用者が使いやすいような階段護岸の改良を行う。
■同時に出水時に伴う河岸洗堀防止も図ることで、水辺プラザ周辺の環境を保持するために低水護岸の補強を行うものである。

施設名称	場所	目的		計画諸元
		河川管理上の整備が必要な理由	河川利用上の整備が必要な理由	
【整備❶】 階段護岸	北上川右岸 支川瀬川 (花巻水辺プラザ)	流水による河岸洗堀防止 （低水護岸の補強）	施設利用者が安全且つ快適に利用出来るよう階段護岸改修を行う	護岸延長 L=130m (A=3,000m2)



【整備❷】トイレの高質化（市）

■水辺プラザ詩の森公園、イギリス海岸付近さわやかトイレについて、和式トイレの洋式化を行う。

【整備❸】イギリス海岸の見える化（市）

■泥岩層が陸上から見える場所として瀬川合流部（渇水時のみ）、水上からアクセスして上陸できる場所として猿ケ石川の北上川合流部付近があり、これらをうまく活用して、写真撮影が出来るようなスポットを整備したり、案内板を整備する。

泥岩層が観察できるスポットの整備

［基本方針］③イベントの展開

（３）北上川河川敷（朝日橋～朝日大橋）の利用環境充実のための整備【国・市】

※青文字は河川管理上の理由

【整備❶】坂路拡幅（国）

■河川巡視時に使用している北上川河川敷へ降りる坂路については、従来から幅員が狭く、災害時の緊急車両等の進入については困難が生じている。
■一方で、北上川河川敷（朝日橋～朝日大橋）では花火大会や消防・水防演習など、多くのイベントが行われているが、幅員が狭いことから演習などに使用する災害車両はもちろん、一般車両についてもすれ違いが難しく坂路拡幅の要望が出ている。
■以上のことから、北上川河川敷への進入路である幅員が狭い坂路についての拡幅を行う。

坂路の幅が狭い

【整備❷】観覧席となる階段護岸の拡幅（国）

■本箇所は、河川改修計画上では堤防保護のための高水護岸を整備する一連区間の一部である。本箇所はかわまちで計画されているとおり、利便性からの整備が求められており、一部先行して高水護岸を整備することが治水・環境の両面からも優位となる。
■堤防法面の一部に既設の階段護岸があり、階段部に腰掛けて観覧が出来る仕様となっているが、花火大会などのイベント時には観覧席としては幅員が十分でないという理由（消防からの指導）から、観覧席としては利用されていない。（避難路として使用されている）
■整備する桟敷席（有料席）は先着順であり、瞬く間に満席となる。
そのため、河川敷で行われる大きなイベントの花火大会や消防演習の他、整備後に計画されている市街地活性化の社会実験の拡大などの観覧席としても利用できる階段護岸を整備することが、各種イベントへの展開にも繋がる。
■令和6年度、花火大会の来客数約2万4000人に対して観覧席は1700人分であり、可能な限りの観覧席として利用できる階段護岸の拡幅を行う。現計画では300mの階段護岸拡幅を計画しており、約8,000人の受入れが可能である。

既設の階段護岸

現状の花火大会有料桟敷席

会場入口付近での立ち見客

堤防上は観覧禁止だが人が滞留

［基本方針］③イベントの展開

※青文字は河川管理上の理由

【整備❸】河川敷の管理用通路の舗装（国）

■日常利用を促進するために、河川敷の管理用通路を舗装する。
■河川巡視の通路を整備することによる河川巡視強化が望まれている。

【整備❹】常設駐車場の整備（市）

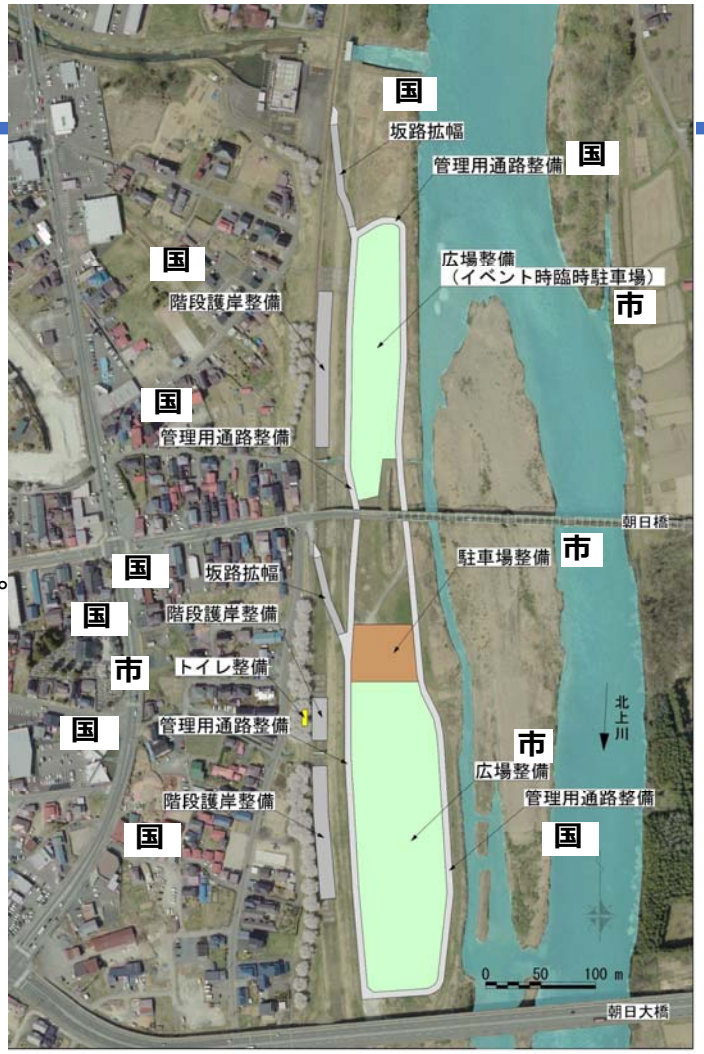
■朝日橋から河川敷に降りる坂路の下に日常利用可能な駐車場を整備する。

【整備❺】堤防上へのトイレの設置（市）

■イベントで河川敷を使うことを考慮して、桜づつみの腹付け盛土部にトイレを設置する。

【整備❻】広場の整備（市）

■朝日橋上流河川敷はイベントを行う際の臨時駐車場となるように不陸整生を行い、普段は草地広場として活用。
■朝日橋下流河川敷についても不陸整正を行い、遊具などの設置について検討して子供から大人まで日常的に利用できる広場として活用する。
■かわまちづくりでトイレや草地広場ができて、グラウンドゴルフやバーバキューなどの場として利用できることを広報やホームページなどで宣伝して日常的な利用促進を図る。



施設名称	場所	目的		計画諸元
		河川管理上の整備が必要な理由	河川利用上の整備が必要な理由	
【整備❶】坂路	北上川右岸 朝日橋上下流	河川管理者が管理用通路として利用しているが、幅員が狭く、有事の際の災害対策車などの通行が困難のため坂路の拡幅が必要。	河川敷でのイベントの際の、唯一の進入路であるが、幅員狭くすれ違いが困難。歩行者等も利用するため、坂路の拡幅が必要。	坂路延長 L=220m(W=4m)
【整備❷】階段護岸	北上川右岸 朝日橋上下流	河川改修計画で計画されている高水護岸	花火大会等のイベントにおける観覧席としての利用	護岸延長　L=300m (A=4,000m2)
【整備❸】管理用通路	北上川右岸 朝日橋上下流	河川巡視の通路を整備することによる巡視強化	散歩・ジョギング等の利用の際のコースとして利用可能	管理用通路延長 L=2,500m

［基本方針］⑥賢治を感じる散策路ネットワークづくり

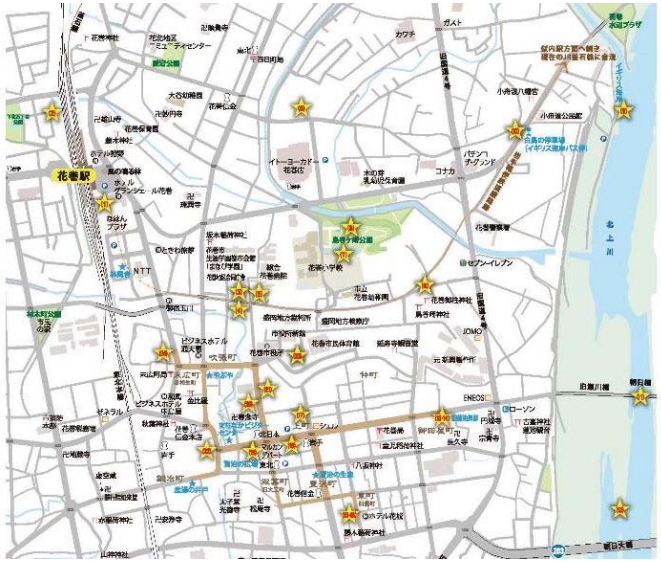
（１）案内板の整備【市】

【整備❶】案内板の設置（市）

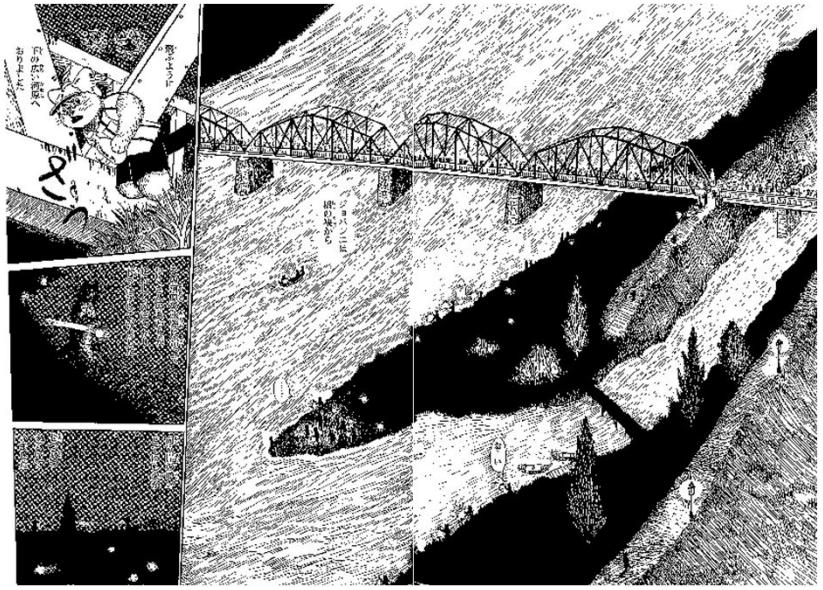
■朝日橋が賢治の代表作「銀河鉄道の夜」に登場する橋のモデルになっているといわれている。
既存のウォーキングトレイル事業も活用しながら、それらを伝える案内板を設置する。

■「かわ」と「まち」を繋げるような、賢治の童話ゆかりの場所をめぐるコースを下記の資料などを参考に作成する。

賢治メルヘンの街・花巻ガイドブック
（花巻商工会議所）



ウォーキングトレイル事業の活用



「銀河鉄道の夜」原作：宮沢賢治　作画：ますむらひろし
発行:風呂猫

［基本方針］◆社会実験の展開

○社会実験の展開（主としてハードのアイデア）

■市民に限らず広くアイデアを募集して、市の占用の上、市民自身が事業者となってアイデアを実現する手法の導入を検討します。

■一般的に占用場所を決めてからアイデアを募集することが多いですが、花巻市の場合はイギリス海岸、朝日橋周辺など候補地が多くあると想定されるため、場所を決めずにアイデアを募集することも考えられます。

■かわまちづくりを推進する協議会等の組織で審査を行い実現すべきアイデアを選定します。

アイデアの例

●カフェの設置
●水辺プラザ周辺の空き地の活用（キャンプ場、ドッグラン等）

（ワークショップの意見より）

整備の実現方策（工程表）

整備実現のための工程を下記に示す。早々に効果を発現できそうな箇所を優先的に整備を進めるが、工事量や工事費については毎年均等となるよう計画する。なお、表の順番は上流から整備地区を並べている。

箇所	事業者	事業内容	ハード整備期間					モニタリング
			R8	R9	R10	R11	R12	R13～17
銀河大橋のたもと	河川管理者	船着き場						既往のかわまちづくり整備で行ったモニタリング調査方法を参考に整備効果の確認できるモニタリング手法により実施。
	花巻市	大型駐車場・転回場						
水辺プラザ（イギリス海岸含む）	河川管理者	階段護岸改良						
	花巻市	和式便所の洋式化						
	花巻市	泥岩層が陸上から見える場所のスポット整備						
北上川河川敷	河川管理者	階段護岸						
	河川管理者	坂路（拡幅）						
	河川管理者	管理用通路舗装						
	花巻市	駐車場						
	花巻市	広場整備						
	花巻市	堤防上のトイレ整備						
下ノ畑	河川管理者	船着き場						
	花巻市	四阿、ベンチなどポケットパーク整備						
花巻スポーツランド近隣	河川管理者	管理用通路舗装						
	花巻市	水辺アクティビティの体験活動を支援する施設の整備						
全箇所共通	花巻市	賢治を感じる散策路ネットワーク案内板等						

Ⅸ. 維持管理計画

維持管理計画

継続的な管理運営をしていくために

■河川管理者（国）、市、民間事業者、施設利用者等が適切な役割分担で継続的に維持管理を実施していく。
■整備した施設等は市で占用して通常時の維持管理を行っていく（出水等による大きな損傷時には国と市が協議して補修を行う。）
■計画期間終了後も「花巻地区かわまちづくり推進協議会」を継続的に開催。管理運営に関する課題の解決や、関係者間の情報の共有を図る。

箇所	事業者	事業内容	維持管理に関する役割分担
銀河大橋のたもと	河川管理者	船着き場	国:破損等に対する補修・安全管理 市:草刈り・清掃(実務は施設利用者)
	花巻市	大型駐車場・転回場	市:維持管理全般
水辺プラザ (イギリス海岸含む)	河川管理者	階段護岸	国:破損等に対する補修・安全管理 市:草刈り・清掃
	花巻市	和式便所の洋式化	市:維持管理全般
	花巻市	泥岩層が陸上から見える場所のスポット	市:維持管理全般
北上川河川敷	河川管理者	階段護岸	国:破損等に対する補修・安全管理 市:草刈り・清掃(実務は施設利用者)
	河川管理者	坂路	国:破損等に対する補修・安全管理
	河川管理者	管理用通路	国:破損等に対する補修・安全管理 市:草刈り・清掃(実務は施設利用者)
	花巻市	駐車場	市:維持管理全般
	花巻市	広場	市:維持管理全般
	花巻市	堤防上のトイレ	市:維持管理全般
下ノ畑	河川管理者	船着き場	国:破損等に対する補修・安全管理 市:草刈り・清掃(実務は施設利用者)
	花巻市	四阿、ベンチなどポケットパーク	市:維持管理全般
花巻スポーツランド 近隣	河川管理者	管理用通路	国:破損等に対する補修・安全管理 市:草刈り・清掃(実務は施設利用者)
	花巻市	水辺アクティビティの体験活動を支援する施設	市:維持管理全般
全箇所共通	花巻市	賢治を感じる散策路ネットワーク案内板等	市:維持管理全般